

## 4 高病原性鳥インフルエンザ防疫演習における

### 新たな取り組み

○大山 知美 宇杉 央

#### 要約

東京都では防疫要員を対象とした、講義と実技による高病原性鳥インフルエンザ防疫演習（演習）を開催している。令和3年度の演習では、新型コロナウイルス感染対策（コロナ対策）や当所の庁舎移転を踏まえ、新たな試みを行った。演習は、防疫要員の集合場所である（公財）東京都農林水産振興財団（財団）にて開催したが、コロナ対策を鑑み、講義はYouTubeによる事前の動画配信に切り替え、演習当日は午後からの実技のみとした。また、当所は令和2年度より庁舎を移転しており、財団までの移動時間が大幅に増加したが、講義を事前配信に切り替えたことで、午前を会場までの移動時間及び午後の演習準備に充てることができた。午後の実技では、体温測定等のコロナ対策を実施するとともに、会場担当者の人員が不足することから、誘導・作業内容の指示を補うものとして新たに動線の要所に看板を設置した。演習後のアンケートでは、8割以上が動画配信を希望し、各講義について7～8割が理解できたと回答した。一方、アンケート及び所内で実施した事後検討会において、会場レイアウトや受付・健康調査会場における看板の掲示方法等について更なる検討の必要性を確認した。また、演習用資材が新・旧庁舎に混在されていた等、設営上の課題も明らかとなった。高病原性鳥インフルエンザ発生時に迅速な防疫対応を講じるためには、防疫要員の初動防疫に対する理解が不可欠であるとともに、コロナ対策が求められる。今回得られた課題をもとに改善を行い、より効果的かつ効率的な演習を実施していく。

東京都では、毎年演習を防疫要員の集合場所である財団にて開催している。対象者は防疫要員及び協力機関職員、演習内容として午前は座学形式の講義、午後は実技を行っている。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の流行により演習を開催するためにはコロナ対策の実施が必須となった。

また、当所は令和2年度より庁舎を立川市から日の出町に移転している。移転前は財団までの距離が約1kmだったが、移転後

は約16kmとなり庁舎から財団までの移動時間が課題と想定された（図1）。

図1 家保新旧庁舎から財団までの距離



立川庁舎（旧）：会場まで約1km（車で5分）  
日の出庁舎（新）：会場まで約16km（車で40～50分）

会場までの移動時間が課題

このような状況から、演習開催にあたっては、コロナ対策を考慮するとともに財団ま

での移動時間の課題を解決し、また効果的な演習を行うべく以下の取組を行った。

## 講義形式の変更

### ～座学形式から事前の動画配信へ～

#### 1 講義形式の変更

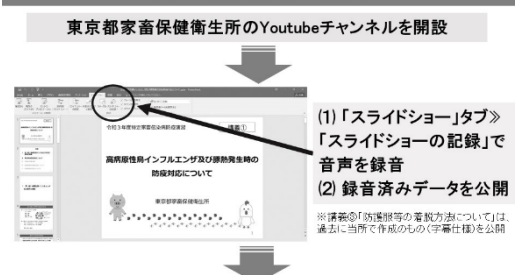
コロナ対策として、演習の午前中に行っていた講義を YouTube による事前の動画配信に変更した。高病原性鳥インフルエンザ発生時の防疫対応や防護服等の脱着方法等、項目ごとに動画を作成し、各動画 10 分から 20 分、4 項目計 50 分程度の動画とした。なお、福祉保健局が実施していた感染症法に基づく健康調査等の講義は、福祉保健局のコロナ対応によるひっ迫した業務状況から実施しなかった (図 2)。

図2 講義形式の変更

Youtubeによる動画配信に変更		
項目	従来	今回
形式	座学(場所:財団講堂)	動画による事前配信(Youtube)
時間	約140分間(休憩含む)	約50分間(各動画10～20分)
内容	例:令和元年度 ①高病原性鳥インフルエンザ等発生時の防疫対応及び各班の作業概要(約60分) ②防護服の着脱方法(約20分) ③実地演習の流れ(約15分) ④高病原性鳥インフルエンザ防疫作業に伴う健康管理と感染防止策(約30分)(※)	以下①～④について動画配信 ①高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱発生時の防疫対応について(約10分) ②防疫対応班、防疫支援班、受付班の作業内容について(約20分) ③防護服等の着脱方法について(約10分) ④実地演習の流れについて(約10分)
備考	※福祉保健局職員による感染症法に基づく健康調査等の講義を定期的に実施。今年度は福祉保健局のコロナ対応によるひっ迫した業務状況を受け実施しなかった。	

動画配信にあたっては当所の YouTube チャンネルを開設し、スライドショー形式の動画に音声付きで配信した。音声の録音にあたっては、パワーポイントのスライドショーの記録機能により録音を行った。これらの動画について、演習参加の有無にかかわらず全ての防疫要員に各動画の URL を通知した (図 3)。

図3 動画配信の方法



#### 2 結果

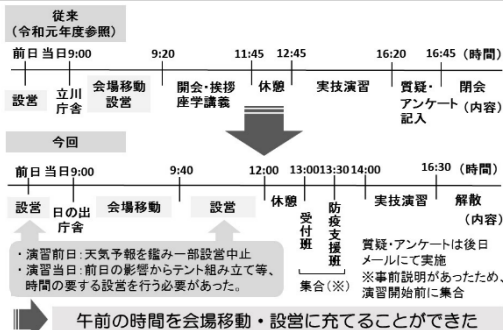
従来の座学形式の場合、人数制限等のコロナ対策が求められるが、動画配信にすることで時間や場所にとらわれず視聴でき、また聞き逃した部分など繰り返し視聴可能となった。(図 4)。

図4 講義形式変更による効果①



更に、講義を事前配信に切り替えたことで、演習当日は午前の時間を財団までの移動及び午後の実技演習の設営に充てることができた (図 5)。

図5 講義形式変更による効果②



例年、アンケートは演習終了後に会場で実施していたが、コロナ対策として会

場内が密になるのを避けるため後日メールにて様式を送付して実施した。講義の開催方法について、動画配信、座学形式、もしくはその他の方法について、いずれを希望するかアンケートをとったところ、回答者の8割以上が動画配信を希望した。アンケートの自由意見欄では、動画配信のメリットとして、業務の隙間時間に視聴ができること、聞き逃したところもすぐ確認できることが良い等の意見が挙げられた(図6)。

また、各講義の内容について、7~8割以上が内容を理解したことがわかった。再生回数に目を向けると、実技演習の参加者が35名だった中、各動画ともにそれを大きく上回る再生回数であった。この再生回数は、実技演習に参加しなかった防疫要員も含まれるが、繰り返し動画を視聴できたことが理解度の高さにつながったものと推察する(図7)。さらに、アンケートでは、実際の防疫作業や他県での発生事例・対応状況など具体的な内容が求められていることがわかった(図8)。

図7 講義に関するアンケート結果②

講義内容について  
Q. 講義内容について、以下の選択肢一覧から該当するものを選んで下さい。

選択肢    よく解った ←    普通    →    全く解らない    ・未視聴  
                 1    2    3    4    5    0

講義	1	2	3	4	5	0	理解度(※)	Youtube再生回数
① 高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱発生時の防疫対応について	15	6	5	0	0	0	81%	198回
② 防疫対応班、防疫支援班、委員班の作業内容について	14	5	7	0	0	0	73%	136回
③ 防護服等の着脱方法について	14	7	4	0	0	1	84%	117回
④ 実地演習の流れについて	15	5	6	0	0	0	77%	116回

※理解度: 選択肢1及び2の回答数/全体の回答数(0:未視聴を除く)

各講義について、回答者の7~8割以上が内容を理解

図8 講義に関するアンケート結果③

講義内容について  
Q. 講義についてのご意見・ご希望があれば、ご記入願います。

~アンケートの声~

- 全体的な説明とは別に各班の具体的な動きや流れを解説した動画があるとありがたいです。
- 演習も含めた動画配信
- 他県等での発生事例、対応時の状況等についても具体的に教えていただければなおよいと思います。

実際の防疫作業や他県等での発生事例・対応状況など具体的な内容が求められている

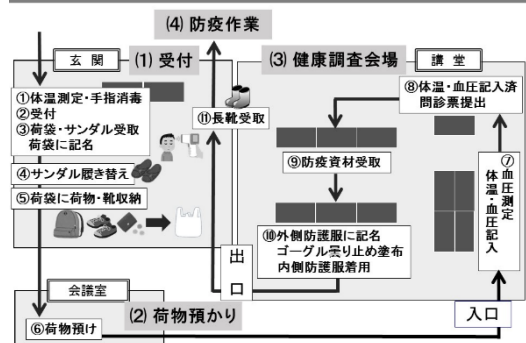
## 会場での取組

### ~コロナ対策及び動線の明示~

#### 1 実施内容

例年、実技演習では、発生時の流れを想定して、①受付(玄関)、②荷物預かり(会議室)、③健康調査等(講堂)及び④防疫作業(グラウンド)を実施している(図9)。

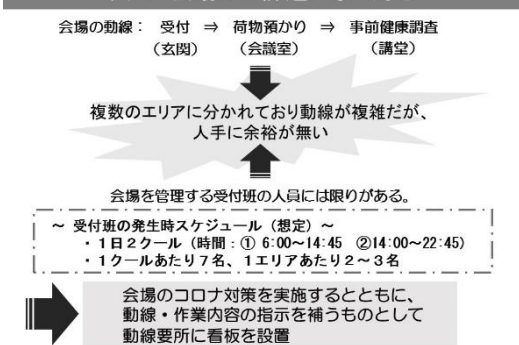
図9 実技演習の動線



これらの作業は複数のエリアで行われており、動線が複雑であると過去の演習で意見が挙がっていた。一方で会場を管理する受付班は発生時において1クールあ

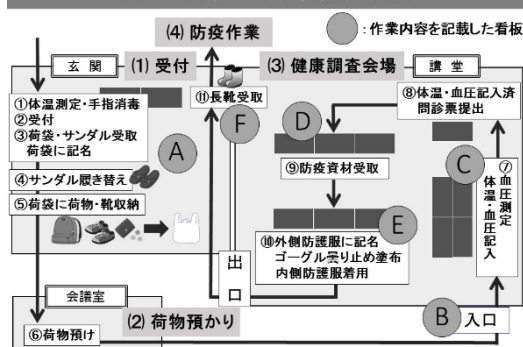
たり7名、1エリアあたり2~3名を想定しており人員に限りがある（図10）。

図10 会場での課題とその対応



そこで、会場のコロナ対策の実施とともに、動線・作業内容の指示を補うものとして動線要所に看板を設置した（図11）。

図11 会場での看板設置箇所



①受付（玄関）では、コロナ対策として、体温測定・手指消毒兼用スタンドにより体温測定・手指消毒を実施するとともに、パーテーションを設置した。また、動線の明示として、サンダルの履き替え、荷物を預けるための荷袋の受取・記名も行うため、その旨の看板を設置した（図12）。③健康調査等（講堂）では、動線の明示のため、会場入口及び体温・血圧の測定・記入場所に看板を設置した。また、コロナ対策として、体温・血圧の測定・記入場所にパーテーションを設置した。併せて、防護資材受取、防

護服への記名、ゴーグル・眼鏡への曇り止めの塗布及び内側防護服着用の作業が発生するため、各作業について、それぞれ看板を設置するとともに防護服への記名等の見本を掲示した（図13、14）。

図12 受付（玄関）での取組

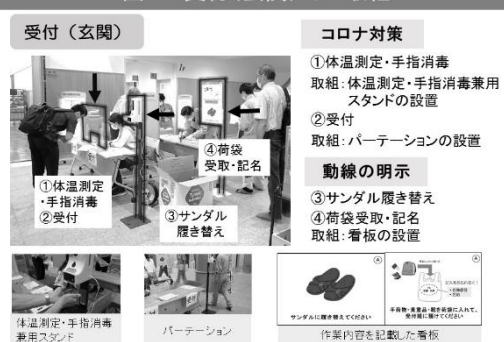


図13 健康調査等（講堂）での取組



図14 健康調査等（講堂）での取組



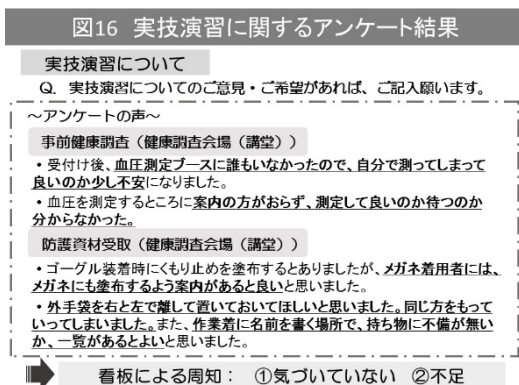
そのほか、②荷物預かり（会議室）では、過去の演習で荷物の置き場所が限られているため、管理が煩雑となり返却作

業に時間を要したことが指摘された。これを受け、保管場所の確保にあたっては、机・椅子を全て端に寄せ、荷物管理にあたっては名簿番号別に管理できる用紙を使用した。用紙を使用することで、名簿番号ごとに管理ができ、荷物の適正な管理につながった（図15）。



## 2 結果

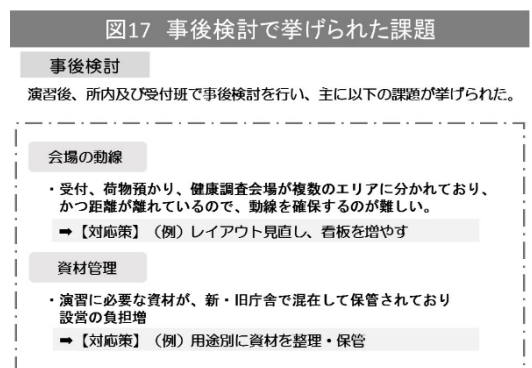
演習後に実施したアンケートでは、主に健康調査等（講堂）で行った作業について意見が挙げられた（図16）。



血圧測定ブースに誰もいなかったの自分で測定していいのか否かわからなかった、眼鏡着用者には眼鏡にも曇り止めを塗布するよう案内があると良い等の意見は、看板に作業内容として掲示していた内容であった。また、手袋について片側1双を受け取ってしまった事例も見受けられた

が、このような想定は無く看板等の対応をしていなかった。更に、防護資材への記名等の作業場所において、持ち物に不備が無いか一覧があると良いという意見が挙げられた。防護資材の受取場所では一覧を記載した看板を掲示していたが、作業場所には一覧を用意していなかった。以上のことから、看板による作業内容の周知に、気づいていない、もしくは不足している状況であることがわかった。

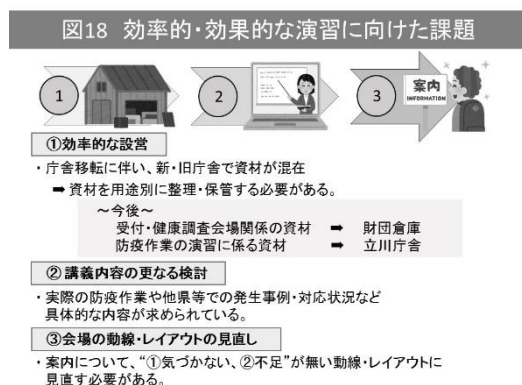
所内及び受付班で事後検討会を行ったところ、主に会場の動線や資材管理に関する課題が挙げられた（図17）。



会場の動線については、これまでも指摘されているが、会場の動線が複数のエリアに分かれており、かつ距離が離れているため動線を単純化するのが難しい状況である。対応策として、レイアウト見直しや看板を増やす等の対応が求められる。また、資材管理について、演習に必要な資材が新旧庁舎で混在して保管されており、設営の負担が大きい状況である。対応策として、今後、用途別に資材を整理・保管することが求められる。

## 課題と今後の方針

今後、効果的・効率的な演習を行うにあたり以下の課題が挙げられる（図18）。



まず、庁舎移転に伴い新・旧庁舎で資材が混在しており、設営が煩雑な状況にある。今後、資材整理を行い、用途別に整理・保管していく。また、講義内容の検討が必要である。アンケートを通じて、実際の防疫作業など、具体的な内容が求められていることがわかった。今後、防疫作業に関する動画や他県での発生事例を盛り込むなど、内容について更に検討していく。さらに、会場の動線・レイアウトの見直す必要がある。アンケート・事後検討を通じて得られた意見を踏まえ、効率的な動線を検討していく。

高病原性鳥インフルエンザ発生時に迅速な防疫対応を行うためには、防疫要員の初動防疫に対する理解が不可欠であるとともに、コロナ対策が求められる。今後、以上の課題について更なる検討・改善を行い、効果的・効率的な演習の実現を目指していく。